

Happy New Year 2023

年頭に寄せて

新

年あけましておめでとございます。

皆様がこの所感を読まれている頃には、新型コロナウイルス感染症の第8波はピークアウトしているかもしれません。当初の予測より早く波が来そうだからです。この波が収束して、次の波までの間に新しいタイプのワクチンや副作用の少ない経口薬が登場し、変異株が重症化し難いタイプにとどまっていれば、新型コロナウイルスは限りなくインフルエンザに近づくことになり、5類への見直しも本格化していくことでしょう。例えば、毎年インフルエンザと新型コロナウイルスの混合ワクチンを接種するような体制になっていくかもしれません。

その後待っているのは、2025年を入り口とした、少子超高齢社会の訪れです。特に東京都は、人口が減ることなく高齢化が進み、要介護の単身あるいは夫婦のみの世帯がどんどん増えていきます。住環境が必ずしもよくない状況も見受けられる中で、地域包括ケアシステムをさらに整え、高齢者

新

春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃から東京都予防医学協会の皆様には、東京都の福祉保健医療行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

国内において新型コロナウイルス感染症が最初に確認されてから、まもなく3年が経過しようとしています。この間、感染拡大の波を繰り返してきましたが、都はその都度先手を打って、検査体制の拡充、病床や宿泊療養施設の確保、高齢者等医療支援型施設の増設、大規模接種会場の設置、陽性者登

公益社団法人
東京都医師会 会長

尾崎 治夫



を面で支えていくとともに、要介護にならないようフレイル予防、認知症予防に力を入れていかなければなりません。

また、社会保障や医療の新たな財源確保の見通しがつかない現在、今までのようにいつでも、どこでも、誰でも、好きな時に医療機関へ、というわけにはいかず、医療へのアクセスも制限されてくる可能性も否定できません。若年層から予防医療を積極的に展開し、日本全体が、がん、心臓病、脳血管障害、COPD（慢性閉塞性肺疾患）等の病気になるまいよう、日頃から健康

チェックを怠らず、入院が必要な病気になる前に対処していかなければなりません。

まさしく、東京都予防医学協会がめざすところですが、今までやってきた事業をさらに充実させることも求められてくると思います。東京都医師会としても、2025年以降をどう乗り切っていくか、TMA近未来医療会議を立ち上げて議論を重ねるところです。

今後、東京都予防医学協会と連携して、東京都民の健康を守るための活動を展開していきたいと考えています。本年もよろしく願っています。

録センターの開設などに取り組み、東京モデルともいえる保健・医療提供体制を築いてきました。この冬を迎えるにあたり、都では、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行を見据え、医療体制戦略ボードの専門家からもご意見をいただきながら検討を重ね、診療・検査医療機関のさらなる拡大、陽性者登録センターの能力の引き上げ、抗インフルエンザ薬を迅速に利用できる仕組みの構築や、若い世代を含めたオミクロン株対応ワクチンの接種推進などの対策を講じてまいりました。引き続き、社会経済活動との

両立を図りながら、感染拡大防止や医療のひっ迫回避を図るため、こうした取り組みを戦略的に進めてまいります。新型コロナウイルス感染症は、がん検査や特定健診の受診控え、習慣的な身体活動・運動の抑制など、都民の健康維持・増進にも大きな影響を及ぼしてきました。令和5年度は、現行の「東京都健康推進プラン21」や「東京都がん対策推進計画」などの最終年度にあたり、新たに次期計画を策定していくこととなります。コロナ禍での経験も踏まえ、さらなる都民の健康づくりの促進、がんの予防や早期発見などに資する検討を進めてまいります。

東京都福祉保健局 技監
成田 友代

今後とも、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる東京の実現をめざし、東京都予防医学協会の皆様をはじめ関係団体や区市町村等と連携を図りながら、福祉・保健・医療サービスの一層の充実に全力を尽くしてまいります。引き続きご協力をお願いいたします。

本年が皆様方にとりましてよい一年となりますことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。